

4. 頓別川水系生息魚関連アンケート

□ 調査について

この調査は、令和2年に頓別川水系で釣りをを行った人に対するアンケート調査で、令和2年12月～令和3年1月を回答期間として実施した。

回答方法はオンライン回答とアンケート用紙による回答の2方法を準備したが、回答があったのはオンラインのみだった。

回答があったのは15件で集計結果は下記の通り。

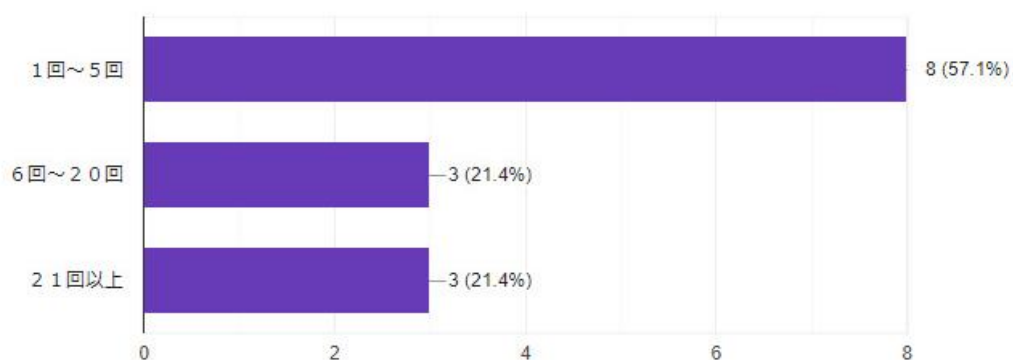
□ 調査結果

1. 集計結果



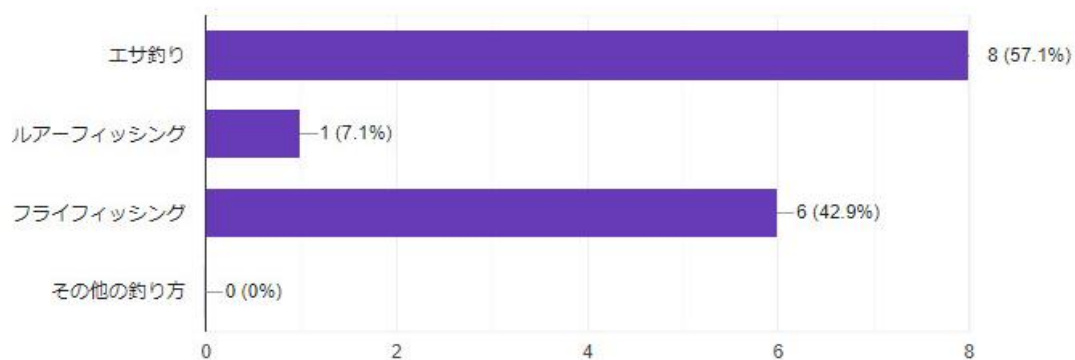
Q2. 2020年、頓別川水系（本流、支流全て）で行った釣りの回数を下記より一つお選びください。

14件の回答



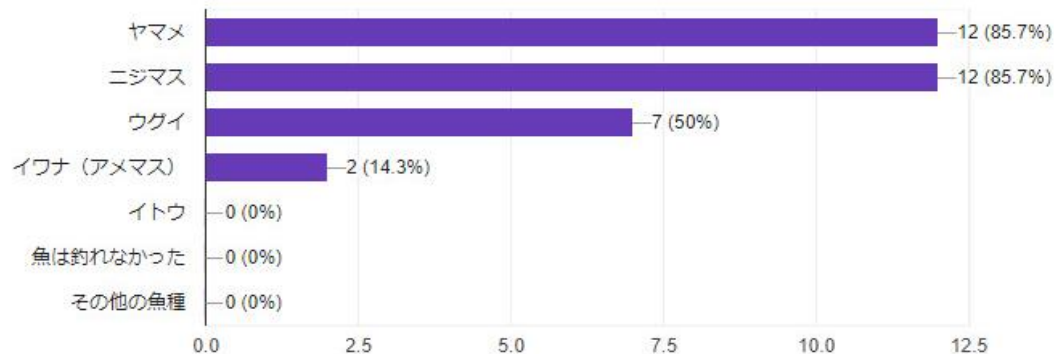
Q3. 2020年、頓別川水系で行った釣りの方法を下記より全てお選びください。

14件の回答



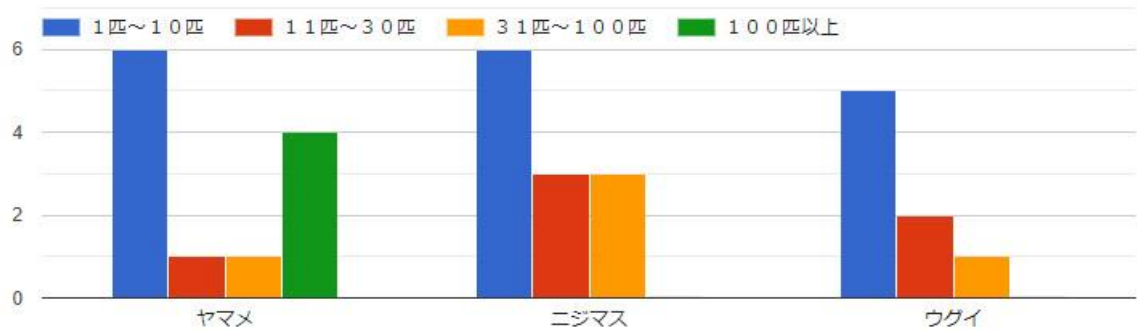
Q4. 2020年、頓別川水系で釣れた魚の種類を下記より全てお選びください。

14件の回答



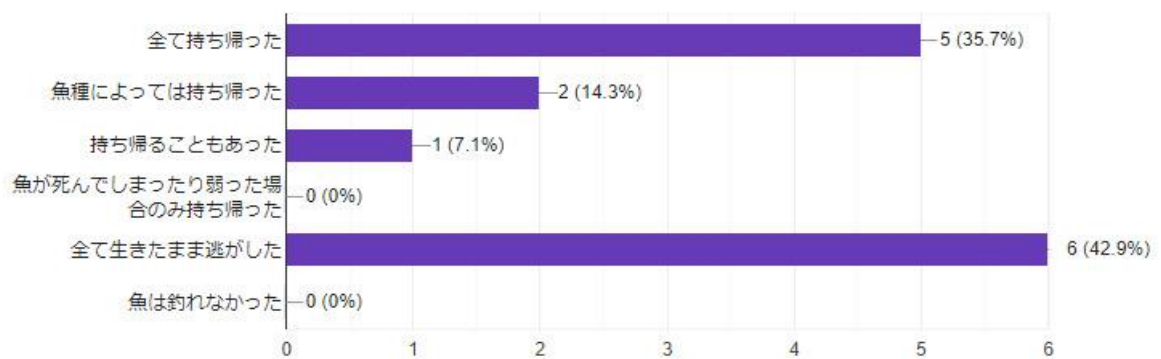
次のQ5は【Q4でヤマメ、ニジマス、ウグイを回答された方】のみに質問します。

Q5. Q4でご回答いただいた魚種の2020年釣ったおおよその数を下記よりお選びください。



Q6. 2020年、頓別川水系で釣り上げた魚はどうしましたか？下記より一つお選びください。

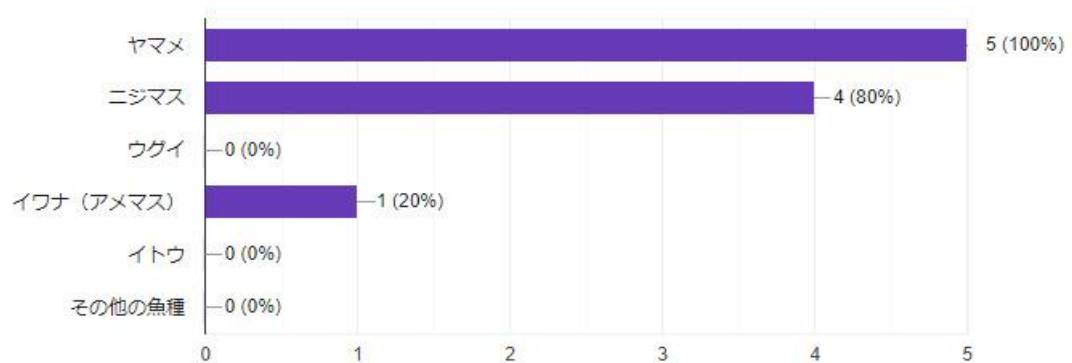
14件の回答



次のQ7は【Q6で「魚種によっては持ち帰った」または「持ち帰ることもあった」と回答した方】のみに質問します。

Q7. 持ち帰った魚種を下記より全てお選びください。

5件の回答



2. アンケート結果総括

今回のアンケート結果は上記の通りであるが、特筆すべき点としては、Q5の質問で年間100匹以上のヤマメを釣ったという回答が比較的多く見られ、ニジマスについては100匹以内の回答にとどまっており、今回の淡水魚生息調査の結果とも類似する点が見られた。

また、上記集計には無いが、Q6で「全て持ち帰った」「魚種によっては持ち帰った」「持ち帰ることもあった」と回答した全ての人の釣りの方法がエサ釣りとは回答しているのに対し、「全て生きたまま逃がした」と回答した人の全てがフライフィッシングとルアーフィッシングと回答していることから、釣りの種類によって捕獲した魚の持ち帰り行動に違いがあることが分かる。

また、魚を持ち帰る人の全てがヤマメを持ち帰っていることがQ7の回答結果からも分かった。